

平成 20 年度

病害虫発生予報第 7 号

平成 21 年 3 月 19 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/boiyosyo> (3 月末頃まで)

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	9
5. 今月のトピックス（コムギの品種と病害について）	10
6. 気象のデータ	11
7. おしらせ	13

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシは少と予想されます。

コムギでは、赤かび病は平年並と予想されますが、開花期には予防防除を行ってください。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（温州みかん）、かいよう病（中晩柑類）の発生量は少、ミカンハダニの発生量はやや少と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量はやや多と予想されますので、昨年発生が多かった園地では、観察を怠らないようにして下さい。赤星病の発生量は少と予想されます。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は平年並と予想されます。チャノホソガの発生時期はやや早と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、灰色かび病はやや多と予想されますので気象や発生の動向に注意して予防してください。また、ハダニ類の発生量もやや多と予想されますので、密度の低いうちに防除してください。うどんこ病についてはやや少と予想されます。

キャベツでは、菌核病の発生量はやや多と予想されますので、降雨に注意して防除を実施してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						3月		4月			
						下旬	下旬	中旬	下旬		
イネ	イネミズゾウムシ	—	少	小	低				成虫誘殺数	<ol style="list-style-type: none"> 1) 常発圃場では箱施用による予防防除を行ってください。 2) 田植え後でも、本田施用できる薬剤で防除が可能です。 	
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通	出穂期	開花期	感染	発病	<ol style="list-style-type: none"> 1) 開花期の予防防除を徹底してください。 2) 開花期以降も降雨が続く場合は追加防除が必要になります。 	
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	葉枝の発病	発芽			<ol style="list-style-type: none"> 1) 春葉が感染する期間は発芽直後から伸長停止期までです。 2) 越冬病斑の見られる枝葉は剪除して、圃場より持ち出して処分してください。 3) 昨年に果実発病がみられた圃場では、発芽期防除を必ず実施してください。 	
	かいよう病	—	(温州)少 (中晩柑)少	小	低					発病密度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑が多い圃場では、発芽前防除を必ず実施してください。 2) 発病枝葉はなるべく剪除し、圃場より持ち出してください。 3) 石灰ボルドー液とマシン油乳剤の近接散布に注意してください。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通					成ダニ密度	<ol style="list-style-type: none"> 1) マシン油乳剤を散布していない圃場では、気温の上昇とともに急増する可能性があるため注意してください。 2) 成虫が1葉当たり1.0頭前後になったら防除してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月		4月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった圃場では、早くから樹体の観察を怠らないようにしてください。 2) りん片に発病を確認したら、基部から切除して圃場外で処分してください。 3) りん片や新梢基部に発病が確認されたら、すぐに防除を実施してください。
	赤星病	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) 赤星病の防除時期は、黒星病の防除適期と重なります。 2) 特に開花期前後の防除が重要なので、各薬剤の特性を理解して両方に登録のある薬剤を使用してください。
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 冬期の気温が高いため、活動が早まっている園地が散見されます。 2) 密度上昇前に防除を行うと効果が高くなります。 3) 4月上旬頃までは茶樹の南側や東側の裾部に多く発生する傾向があるので、裾部の葉裏に薬液が十分かかるようにします。
	チャノホソガ	やや早	—	—	—					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新葉の葉裏に産卵または孵化幼虫を認めたら防除します。 2) ホソガは新芽のみに産卵するため、成虫飛来があっても新芽のない場合は発生の割に被害が少なくなるので、新芽への産卵状況と生育状況を考慮して防除要否を判断します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		3月	4月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	灰色かび病	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 20℃前後で多湿の時に発生しやすいので、施設の換気に努めてください。 老化・枯死した下葉は、伝染源になるので除去し、発病果も速やかに除去します。胞子が飛散しないよう袋に密封するか土中に埋めてください。 降雨が続く場合は早目にくん煙剤で予防してください。 ほぼ株全体に発生するので、薬剤散布をするときは発病部位だけでなく株全体に薬液がかかるよう丁寧に散布してください。
	うどんこ病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 発病を認めたときは、集中的に薬剤散布し、十分に防除してください。 発病果は伝染源となるので、見つけ次第除去してください。
	ハダニ類	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、寄生密度が低いうちに徹底した防除を行ってください。密度が上昇したあとの防除では効果が劣ります。 薬剤がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。 薬剤散布にあたっては、ミツバチや天敵に対する影響に十分注意してください。 ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						3月	4月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
キャベツ	菌核病	—	やや多	中	普通		<ol style="list-style-type: none"> 1) 結球期ごろから目立ち始め、葉の傷口や生育の衰えた下葉から感染します。 2) 3～5月、気温が20℃前後になり適度な雨があると発生しやすくなるので、この時期に薬剤を散布して植物体を保護します。 3) 薬剤は初発部位である株元に十分かかるように散布してください。 4) 菌核は土中で5年以上生き残ることがあるので、発病株は菌核をつくらないうちに処分してください。 			

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 昨年 8 月の巡回調査圃場（払い落とし）では、成虫の発生圃場率は 8.0%（平年 10.6%）で少、虫数は 0.11 頭（平年 0.18 頭）でやや少の傾向（－）</p> <p>2) 昨年の予察灯（水田・松阪市、7～8 月）では、誘殺数は 97 頭（平年 158 頭）と少（－）</p> <p>考察： 昨年の新成虫の発生量は少と思われるので、発生量は少と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 3 か月予報（2 月 25 日発表）によると、4 月は平年と同様に晴れる日が多い予想（±）</p> <p>2) 生育予測では、コムギ出穂期はやや早（農業研究所情報）、開花期間は平年並の予想（中央普及セ情報）（±）</p> <p>考察： 発生の増減に影響を及ぼす要因はなく発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 13 日発表）によると、気温は低くない予想（＋）</p> <p>2) 昨年 7 月下旬の県予察圃（無防除圃場）では、春葉の発病率は 70.5%（平年 60.4%）と平年並の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、昨年春葉における発病は平年並に確認できず（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（－）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況から、発生量は少と考えます。</p>
	かいよう病	—	(温州)少 (中晩柑)少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 13 日発表）によると、気温は低くない予想（＋）</p> <p>2) 県予察圃（無防除圃場、2 月 12 日）では、越冬病斑の発病葉率及び発病度は平年並の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、病斑は温州みかんで未確認(±)、中晩柑類 3 地点で確認(±)（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は概して温州みかんで少、中晩柑類でやや少（－）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況から、発生量は温州みかん、中晩柑類ともに少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1 か月予報（3 月 13 日発表）によると、気温は低くない予想（＋）</p> <p>2) 県予察圃（3 月 10 日）では、1 葉当たりの寄生虫数は、防除圃場で 0 頭（平年 15.0 頭）とやや少の傾向、無防除圃場で 121 頭（平年 21.2 頭）と多（－）</p> <p>3) 巡回調査圃場（3 月第 1 週）では、寄生葉率は 2.6%（平年 3.8%）と少、平均寄生虫数は 0.05 頭（平年 0.21 頭）とやや少の傾向（－）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（－）</p> <p>考察： 気象状況と一般圃場の発生状況を考慮して、発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	黒星病	－	やや多	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（＋） 2) 昨年8月の巡回調査圃場では、平均発病葉率は2.9%（平年0.002%）と多、発病果率は4.0%と多の傾向（＋） 3) 一般圃場では、昨年秋の発生量はやや多（＋） 考察： 昨年の一般圃場の発生状況を考慮して、発生量はやや多と考えます。
	赤星病	－	少	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（±） 2) 昨年の一般圃場では、発生量は少（－） 考察： 昨年の一般圃場の発生状況を考慮して、発生量は少と考えます。
チャ	カンザワハダニ	－	平年並	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（＋） 2) 県予察圃（3月11日）では、寄生葉率1.0%（平年5.7%）と少、1葉当たりの寄生虫数は0.11頭（平年0.46頭）とやや少の傾向（－） 3) 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生葉率は1.0%（平年1.4%）とやや少（－）、1葉当たり寄生虫数は0.01頭（平年0.05）と平年並の傾向（±）（－） 4) 一般圃場では、発生状況は平年並（±） 考察： 一般圃場の発生状況を考慮して、発生量は平年並と考えます。
	チャノホソガ	やや早	－	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（発生時期－） 2) 県予察圃フェロモントラップでは、初飛来は3月11日に確認（H20:3/17、H19:3/3、H18:3/23）（±） 考察： 気象状況を考慮して、越冬世代成虫の発生時期はやや早と考えます。
イチゴ	灰色かび病	－	やや多	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（±） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は0.2%（平年0.6%）、発病果率は0.3%（平年0.4%）と平年並の傾向（±） 3) 一般圃場では、発生量はやや多～多（概してやや多）（＋） 考察： 一般圃場での発生量を重視して、予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は0.4%（5年平均0%）と平年並の傾向（±） 3) 一般圃場では、発生量は少（-） 考察： 一般圃場での発生量は少ですが、気象状況を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。
	ハダニ類	—	やや多	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、寄生株率は16.0%（5年平均15.1%）と平年並の傾向（±） 3) 一般圃場では、発生量は平年並～やや多（概して平年並）（±） 考察： 現在の発生量は平年並ですが、気象状況を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
キャベツ	菌核病	—	やや多	要因 1) 1か月予報（3月13日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 巡回調査圃場（3月第1週）では、発病株率は0.7%（平年0.6%）と平年並の傾向（±） 3) 一般圃場では、発生量は平年並（±） 考察： 巡回調査圃場や一般圃場での発生量は平年並であるが、気象状況を考慮して予想発生量はやや多と考えます。

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「小麦の品種と病害について」

1) 赤かび病

糸状菌による病気で、開花期に降雨が続くと多発します。高温は発生を助長します。最近では 1998 年に大発生し、2006 年にも多発が見られました（図 1）。「タマイズミ」「ニシノカオリ」は「農林 61 号」「あやひかり」よりもよく出ます。薬剤防除は開花期の予防散布が基本です。降雨が連続する場合は追加防除も必要です。

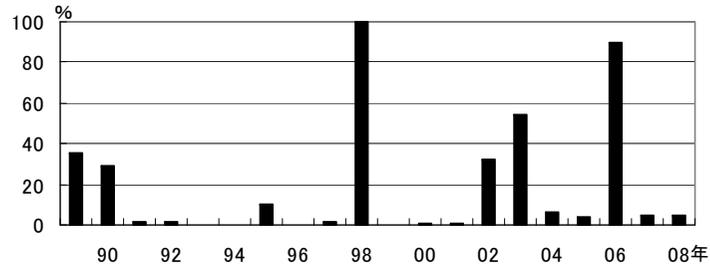


図 1 三重県のコムギ赤かび病の発生圃場率の年次推移

2) 縞萎縮病

葉がかすり状となるウイルス病で、土壌伝染します（図 2）。「農林 61 号」は多発し、「タマイズミ」もよく発病します。「あやひかり」「ニシノカオリ」はある程度の抵抗性がありますが、「ニシノカオリ」ではしばしば発病が見られます。「農林 61 号」の栽培面積が減少していることによって、県全体としては発生が少なくなってきました（図 3）。早撒きで発生が増えるといわれています。防除薬剤はありません。



図 2 縞萎縮病の病徴

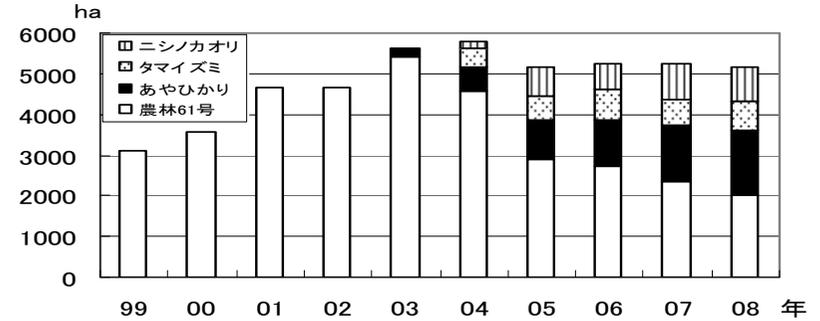


図 3 三重県のコムギ品種作付面積の年次推移

3) 黒節病

細菌病で、葉、茎に発生します（図 4）。206 年に本県では「あやひかり」と「農林 61 号」で発生が見られました。種子伝染するといわれ、暖冬の年に発生が多いとされています。連作をさげ、健全種子を使用してください。「あやひかり」は発生しやすいようです。



図 4 黒節病の病徴（農業研究所提供）

4) 株腐病

糸状菌による病気で、主に茎の地際部に発生します。菌核が土表に落ち、翌年の感染源となります。時折「ニシノカオリ」で発生が見られます。抵抗性品種はありません。

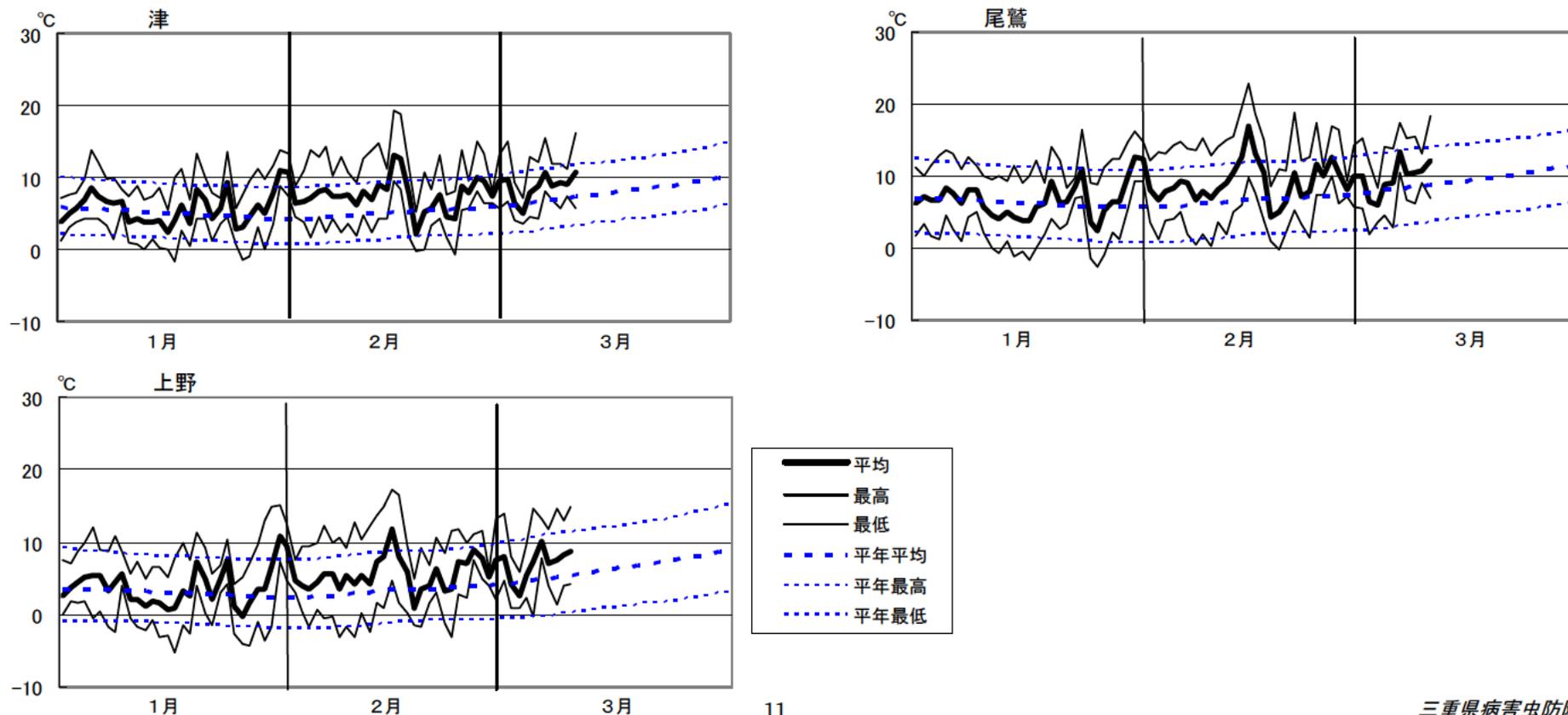
6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成21年3月13日 名古屋地方気象台発表)

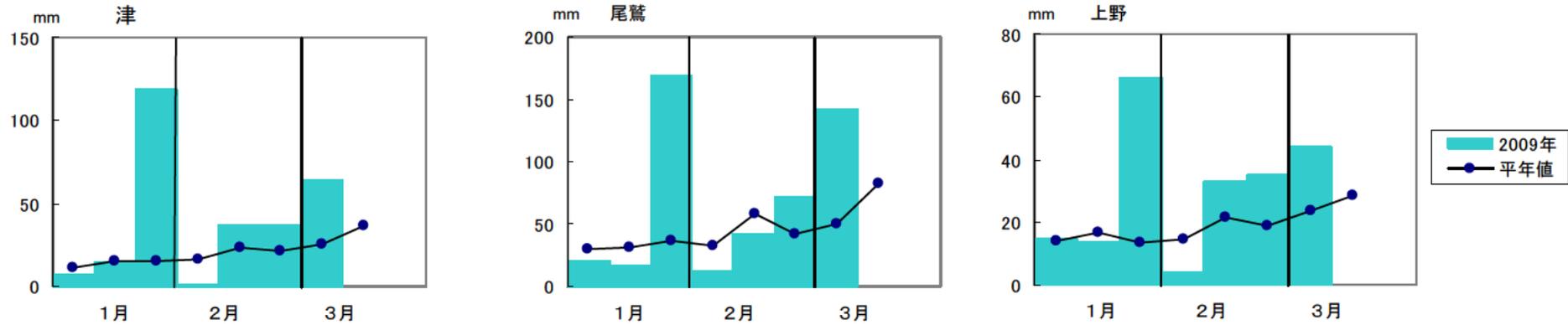
東海地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。

1週目 (3月14日～20日)	期間のはじめは低気圧や前線の影響で雨が降る見込みです。その後は高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、気圧の谷の影響で雲の広がる日もあるでしょう。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 (3月21日～27日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。	同 約4日
3～4週目 (3月28日～4月10日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。	同 約8日

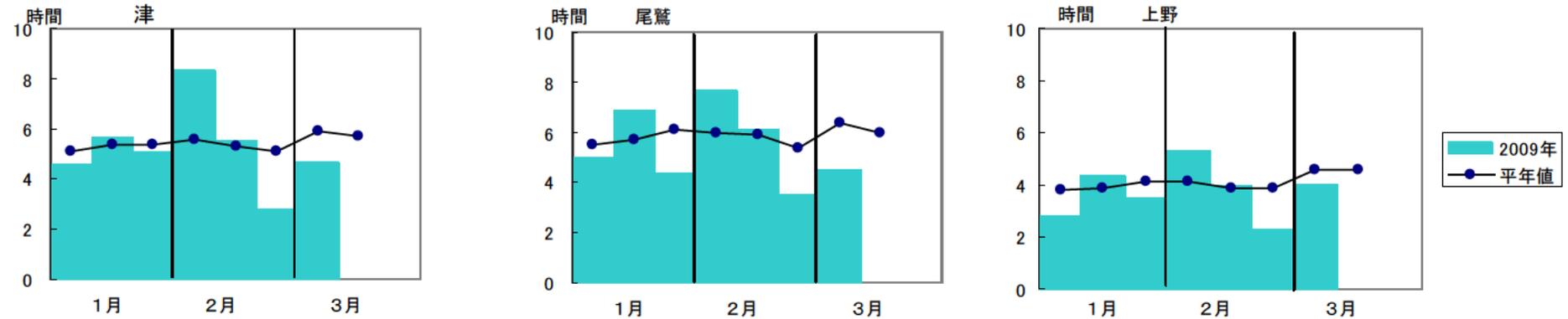
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ **NEW** (NEWの印は前回と異なる項目です。)

1) 利用方法 **NEW**

この病害虫発生予報は、ほぼ定期的に発表されます。

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/> (3月末頃まで)

このホームページは、原則フリーリンクです。できるだけ多くの農業関係者の方にホームページをご覧いただきたいと思っていますので、ぜひ、市町、JA等みなさんのホームページにリンク設定していただくことをお願いいたします。この場合、事前の承諾申請等は不要です。

なお、事後で結構ですのでメールにてご一報いただきたくお願いいたします。

2) メール配信サービス **NEW**

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm> (3月末頃まで)

3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登

録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

4) 三重県病害虫防除の手引き **NEW**

「三重県病害虫防除の手引き」は、4月頃に発行する予定です。

5) 本冊子の利用の手引き書 **NEW**

本冊子の利用方法を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」は、下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki.pdf> (3月末頃まで)

6) 植物防疫年報

本県の「植物防疫年報」(平成17～19年度分)を病害虫防除所ホームページに置きました。事業内容や調査データが掲載されていますのでご利用ください。

7) ホームページアドレスの変更 **NEW**

2009年3月下旬に、病害虫防除所ホームページを、三重県庁HP内に移転します。それにしたがって、現在のHPは廃止されます。

現在のHPにて、移行の案内をさせていただきます。今後ともご利用よろしく申し上げます。